

# 令和5年度「少年の主張」根室地区大会

開催日時：令和5年（2023年）7月19日（水）

13：30～15：20

開催場所：標津町生涯学習センターあすばる

## ○発表者

### 【最優秀賞】

個性超える子、成長ある 唐崎 愛華（標津町立標津中学校3年）

### 【優秀賞】

「言葉」という魔法 南 ふみか（中標津町立中標津中学校2年）  
吹部の説明書 阿部 仁心（標津町立標津中学校3年）

### 【優良賞】

あなたが知らない世界 島崎 凜（別海町立上西春別中学校年3年）  
税金 稗田 光（羅臼町立知床未来中学校2年）  
必要な格差とは 山田 結心（根室市立柏陵中学校3年）  
変わる、そして変える 川・ 亜胡（別海町立中春別中学校3年）  
羅臼の魅力伝えるために 奥山 凜（羅臼町立知床未来中学校3年）  
努力は報われる 佐藤 日向子（根室市立海星学校9年）

（※優良賞は発表順掲載）

## ○講評

審査員長 根本 渉（根室管内校長会）

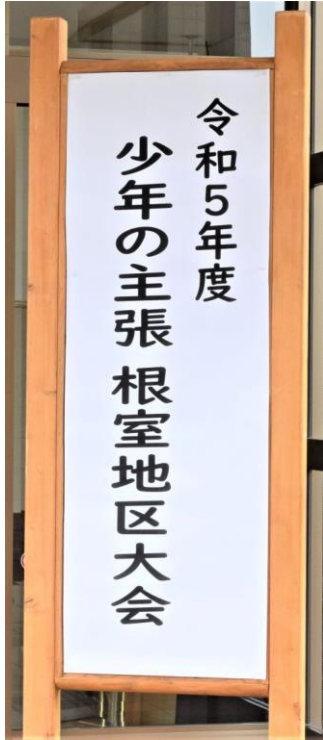
審査員 吉川 禎（根室地区青少年育成運動推進指導員会）

丹野 聡（根室地方PTA連合会）

山口 靖浩（標津町学校運営協議会委員（標津地区））

山本 祐一（標津町学校運営協議会委員（川北地区））

森下 智之（北海道教育庁根室教育局）









## 最優秀賞

### 個性超ある子、成長ある

標津町立標津中学校3年 からさき 唐崎 あい か 愛華

「障害」と聞いて、どう思いますか。障害というとたくさん種類があると思います。そこで今回は発達障害を持つ子どもをみてどう思うかという問いで主張させていただきます。

なぜ障害をテーマにしたかという点、妹が知的障害という周りより言葉や身体の発達が遅れる障害を持っており、姉として妹に対する、もっと言えば障害者に対する見方を改めてほしいと強く思ったからです。

まずはクラスの人にアンケートを採って色々な意見を集めました。十四人の内「かわいいと思う」が三人。「手伝おうと思う」が二人。「かわいそう」が一人。「健常者と同じく接したい」が三人。「個性的だ」が五人という結果でした。みんな優しくていい人達だと安心し、改めて同級生で良かったと実感しました。他にも意見が欲しくてネットで調べてみると、「やはり手伝ってあげたい」という思いを持っている人が多かったです。

私も妹のやっていることを手伝いたいと思っていたのに、「やめて」と言われたことがありました。私はせっかく手伝ったのにとがっかりし腹が立ち、ふてくされて録画していたドラマを見ました。これは発達障害を持っている妻と社会を描いたもので、障害者への思いが変わる、私にとって心に響くドラマでした。

私が特に印象的だったのは、妻が主婦として頑張っているところに夫の悟が少しでも力になりたいと手伝おうとした場面です。妻は自分でやっていたのにと悟を邪魔者のように扱ってしまい、喧嘩してしまいました。この場面を見て私ははっとしました。私は妹のできることを減らしていたのだと知り、素直に謝りました。これからは妹に「これできる？」と一言聞いてから手伝おうと心に決めました。

それから私は、妹に「このお皿運んでもいい？」や、「頑張ってるね。」と声をかけることが増えました。すると妹から「ありがとう。」という言葉がもらえることができました。そんな妹を見ていると楽しそうにいきいきと仕事をしているように感じました。私が変わることで妹の言葉使いが優しくなり、二人とも成長したなと思いました。

ネットや実体験から私達健常者は、障害者に対してできることが少ないという偏見を持っています。その気持ちから手伝おうという優しさが生まれ、人は動くのでしょうか。それは確かに分かります。しかし、障害者側からはどうでしょうか。障害を理由にできることを減らしたくないのではと私は考えます。きっと手伝ってほしい場面はあるはずですが、でも健常者と同じようにまずは自分でやってみたいのではないのでしょうか。きっと私の妹の「やめて」。はこのような思いがあったのだと思います。

発達障害にしばって主張してきましたが、つまり私が言いたいことは二つです。

一つ目は、障害者に対して偏見を持ってしまうのは当然だと思います。だからこそ、何かするときは一言声をかけることを当たり前にしてほしいです。

二つ目は、障害という言葉にとらわれず、個性であると考え、特別扱いしてほしくないということです。みなさんでも苦手なこと、難しいことがありますよね。それと同じように考えれば、障害者は苦手なことが一つ二つ多いだけと考えることができます。その一つや二つのことに手伝いが必要だとしても、個性であり、伸びしろだと思ってほしいです。

最後に、みなさんは障害と聞いてどう思いますか。私は今なら一言と言えます。「個性超ある子、成長ある！」と。





## 優秀賞

### 「言葉」という魔法

中標津町立中標津中学校 2年 みなみ 南 ふみか

「大丈夫、ふみかならできるよ。」

当時小学三年生の私に担任の先生は言いました。普通に聞くと、ただの励まし言葉に聞こえますが、私にとっては魔法のような言葉でした。

私はもともと、自分の意見が言えず、友人関係でも、嫌な思いをすることがよくありました。そんなある日、私を大きく変える出来事があったのです。三年生になり、少したったころ学級役員を決めることになりました。私は少し迷いました。なぜなら、私が立候補したところで、他の立候補者と多数決をとったら、私が落ちてしまうだろうと勝手に理由をつけて、立候補を諦めていたからです。その時、声をかけてくれたのが担任の先生でした。

「立候補してみないの？」

先生は私がリーダーにあこがれていることを知っていました。

「やってみたいけど、自身がない。」

そう答えた私に先生は言いました。

「大丈夫。ふみかならできるよ。」

この言葉を聞いた瞬間、大きな衝撃を受けました。私はこの言葉一つに大きく変えられたのです。そして、この言葉をバネに初めての副委員長に立候補しました。私はこの立候補を皮切りに挑戦を始めたのです。私は大きく生まれ変わったような気がしました。

そしてこの時、私は改めて言葉の持つ力の重要性に気がついたのです。言葉は魔法のようなもので、先生は私に魔法をかけてくれたのです。私達は日常生活でも沢山の魔法をかけ合っています。言葉について考えることは少なくても、きっかけは沢山あるのです。例えば、今となりにいる友達。毎日、学校で挨拶という魔法をかけ合っています。そして私の場合は相談を通してでも言葉の素晴らしさに気がつくことができました。

ある時、将来についてという授業がありました。私も自分の将来について考えてはいたのですが、家族からは「無理だ」と言われ、悩んでいました。そんな時、相談にのってくれたのが友達でした。友達は私の話を聞いてくれている間

「そっか」

「わかるよ」

と、相づちを打ちながら、結局全て話してしまうほど話しやすい空気をつくり、私は安心させてくれました。そして、その友達とはこの相談を通してさらに仲が深まりました。私は何度も、言葉の持つ力に助けられてきたのです。

今まで私が話した二つの体験談では、言葉は魔法のようで、良い力を持っている。つまり言葉は「ポジティブな力」を持っています。ポジティブな力を使えば、人を傷つけることがなくなり、自然と誰からも近寄りやすい印象をつくることができます。しかし、反対に「ネガティブな力」も持っているとも考えられます。言葉の持つ力はきちんと正しく使わなくてはなりません。ネガティブな力を使い続けることは、いじめにもつながってしまう可能性があります。

言葉は人を傷つける武器になりかねません。私は言葉の持つ「良い面」と「悪い面」をしっかりと区別して、言葉で嫌な思いをする人を減らしていきたいと思います。

私は私がそうであったように、このポジティブな力を使って、誰かの助けになれるような誰かに魔法をかけてあげられるような、そんな人になりたいです。



## 優秀賞

### 吹部の説明書

標津町立標津中学校3年 あべ 仁心 にこ

「吹部って楽だよなー」

五分後、このような偏見を無くして見せます。

まず、皆さんにとって「吹奏楽部」と聞くとどんなイメージがありますか？私は、部活でのランニング中、ふとこんな事を思いました。「文化部なのに、ランニングをしている吹部を見て皆はどう思うのだろう？」と。

私は、他の部活に入っている友達に「吹部にどんなイメージを持っているか。」を聞いてみる事にしました。すると、「可愛い人が多い」「運動出来る人が多くていいね」などの嬉しい言葉を耳にしました。よく考えてみれば、吹奏楽部がランニングをしているからと言って、他の部活の人には何の感情も無かったのです。ですが中には、「根暗が多そう」「練習が楽」という声もちろほら聞こえました。もちろん吹部は傷付きます。では、なでそう思うのだろうと私なりに考えてみました。結局、人によって部活の価値観が違うからだとは私は思います。

私自身も、吹部を何年もやる中で部活への想いと価値観が変わりました。小学六年生の頃、私は「部長」という大役を任せられました。その時は、「皆が楽しければいい」とか「思い出づくり」の気持ちでやっていました。たくさんの失敗が続き、ほとんどは怒られていた気がします。夏のコンクールはコロナウイルスで無かったため、アンサンブルコンクールが私の最後の大会となりましたが、結果は「銀賞」でした。今まで私はあまり悔しいと思った事は無かったのですが、この時はとても悔しいと思いました。そして、本気で金賞を狙ってみたいと強く思いました。実際、価値観が変わる前までは、「吹部は楽」と私も思ってしまったのかも知れません。

こんな体験から私は、同じ部活でも、価値観の違いで思うイメージが変わるという事を強く実感しました。

部活は軽い気持ちでやってもいいのかもしれませんが、ですが私は、これから数回しか体験できないコンクールに本気で挑みたいと思います。また、単なる「思い出づくり」という思いではなく、「本気」で最後まで部活をやり抜くことが出来たら、私は大きな達成感を得ることができると思います。

私にとって部活とは、仲間と助け合い、支え合い、礼儀や強い心を身に付ける事が出来る場所で、家族のようなものです。そして、本気でやるという事は、辛い壁にぶち当たったり、自分の自由が少なくなる事もあると思います。でも、そんな事を乗り越えた先に、やっつけて良かったと思うときがあります!!その気持ちを次感じるのはいつだろう?と思いながらやっていると、楽しくて仕方が無いと思います。実際私はそうです。

最後に、初めに言った

「吹部って楽だよなー」

こんな偏見が少しでも無くなり、みなさんの吹部に対するイメージが「ちょっと大変だけど、楽しくて仕方がない部活」になっていると私は嬉しいです。



## 優良賞

### あなたが知らない世界

別海町立上西春別中学校3年 しまざき りん  
島崎 凜

「え・・・」

夜9時。ゴミ箱を漁って食べ物を探している男性、地下道で沢山の袋に囲まれて寝ている女性。旅行中の私は初めてホームレスという存在を目の前にしました。

自分が知らない世界を見た気がして、怖いような、悲しいような、何とも言えない気持ちになりました。日本で貧困に苦しんでいる人はいない、そう思いこんでいたわけではありません。私の住む町でこのような生活をしている人を見たことがなく、その光景を見た時日本にも貧困に苦しんでいる人がいるということに気が付かされました。

そして、私は日本の貧困問題について、知る必要があると思いました。私にとって衝撃だったホームレスという存在を含め、日本には貧困に苦しんでいる人がどのくらいいて、どのような暮らしをしているのでしょうか。

貧困は大きく絶対的貧困と相対的貧困の二種類に分けられます。絶対的貧困は、生きる上で必要最低限の生活水準が満たされていない状態を示します。私が見たホームレスという存在は絶対的貧困に近いと言えます。

もう一つの相対的貧困、日本の貧困の多くはこれに該当すると言えます。生きるか死ぬかの餓死レベルというわけではないけれど、同じ国・地域の人とくらべて収入・資産が少なく、生活が苦しい不安定な状態のことです。日本の人口の六人に一人が相対的貧困に苦しんでいるのが現状です。

相対的貧困に苦しむ人々は、ひとり親の家庭が多いと言われています。子供の進学や就学を諦めなければいけない、栄養バランスの整った食事をさせてあげられない。特に、出産を機に会社を辞めたり、働き方を変えたりする女性が多くいます。ひとり親となったときに正社員を目指すものの、現実はず方なく非正規で働くことを選択するケースが多いことから、十分な生活費を得ることができないケースが多いそうです。

六人に一人。貧困に苦しむ親子や人々は、決してめずらしくなんかはない。身近にも貧困はあるのだと、実感しました。

私は、冒頭でお話した、ホームレスという存在を見たときに、ある青年も目にしていました。ホームレスの寝ている前で、募金活動を行っている青年です。「お願いします」と誰も立ち止まらない中、呼び掛け続ける姿は、私の心に深く刻み込まれました。

私にも何かできることはないのかと思い調べてみてものの、ボランティアだと高校生からで、募金しようとしてもクレジットカードが必要だったり、私が興味を持った取組は出来ないものばかりでした。私はまだ中学生で直接問題解決のために動くことは難しいけれど、人に広めて知ってもらうことなら出来ると考え今回の弁論を通し行動してみました。

「貧しい」

この一言は、日本の解決しなければならない問題だということに気が付いている人はどのくらいいるのでしょうか。私は今回のことをきっかけとして日本には多くの貧困に苦しんでいる人がいるということを知りました。

色々な世界が広がっていて、きらきらした世界もあれば、そうではない世界もあります。

けて、きらきらしているとはいえない世界の中に広がっている貧困問題が日本にも一定数存在することを、今、私の発表を通して知った方もいるでしょう。

行動に起こすことはとても勇気があるけれど、知ることは指一本から出来ます。

あなたの知らない世界を、知る世界に変えてみませんか？



## 優良賞

### 税金

羅臼町立知床未来中学校 2年 ひえだ 稗田 ひかり 光

みなさんは、「税金高いなー」と思ったことはありませんか。

僕が、税金を高いと思ったきっかけは、「消費税がさらに高くなる」というニュースを見たことと、親が持っていた消費税が5%だった時代のレシートを見たことです。また、税金が高いと感じただけでなく、税金の種類も多いと感じました。

例えば、社会の先生から聞いたお話では、『ボーナスから所得税が十万円近く持っていかれた』とのことでした。

お金が欲しくて働いているのに、所得税という税金に引かれるのは、おかしいと思いませんか。

そこで、そのようにして集められた税金が、どのような場所で使われているのか調べました。

税金の使い道には、警察署や消防署、学校や公立の病院で働く人たちの給料、ゴミ処理施設や道路、橋の整備に係るお金、除雪に係るお金、病気や怪我で病院に行ったときの代金の控除があります。このような税金の使われ方をすることで、日本は安全で便利な暮らしが出来るようになっています。

しかし、僕の意見としては、少し下げしてほしいと思っています。その一方で、現在の総理大臣である岸田総理は、増税を検討しています。具体的に、増税が検討されるものとしては、消費税や防衛費にあてるための税金、そして新たに追加されるかもしれない走行距離税などがあります。

まず、輸入品に頼ることが多い日本では、円安の影響で物の金額が高くなった時に、私たちの生活にも影響が出ます。ここでさらに消費税が増税された場合、約二十年間給料の減り続けている日本の生活はどうなるのか、みなさん分かりますよね。

またもし、走行距離税が導入されたら、土地面積の多い北海道に暮らす私たちや、走行距離の長いトラックなどの運送業界にとって、さらに生活が苦しくなったり、会社の経営そのものが出来なくなったりして色々な人に影響が出ると思います。さらに、公共交通機関が少ない地域では、移動手段が自動車などに限られてしまうため、電車などの移動がメインになる都市部の人と比べた時に平等に欠けます。

そして、政府は防衛費にかかわって、一兆円余りの増税を検討しているようですが、それとは別にウクライナへ七千三百億円の寄付をしたそうです。日本国民が増税などにより、生活に苦しんでいるにもかかわらず、他国にそんなに寄付をして、日本国民の負担を増やして良いのでしょうか。

このような状況を踏まえて、僕は国民から税金を徴収するのであれば、政府はしっかりとその使い道を公表してほしいと思います。

最後に、僕の理想とする税金の使い方は、フィンランドのような税金の使い方です。フィンランドの消費税は、世界的に見ると二十四%と高いですが、そのかわり病気になった時の治療費や大学までの学費、給食費の無料、育児休暇制度や失業保険が充実しており、国民の約八割が満足しています。誰でも気軽に病院に行けて、誰でも気軽に大学で学べて、もしも仕事を辞めることになってしまっても、生きていく助けを得られる社会なら安心して暮らせると思いませんか。

このように、日本も国民の不満が少なくなるように、税金が自分たちの幸せのために返ってくると思えるような政策を取り入れ、税金が高くなっても生活の満足度の高い日本になったら良いと思います。





## 優良賞

### 必要な格差とは

根室市立柏陵中学校 3年 やまだ ゆい 山田 結心

「平等で、みんなが毎日幸せな社会をつくります。」今、このフレーズを聞いてあなたはどんなことを思っただろうか。「なんだか良さそう」「幸せそう!」と思った人もいるかもしれない。だが、私はそうは思わない。なぜなら、このフレーズに出てくる「平等」には大きなデメリットがあり、平等と幸せの両立は不可能だ、と考えるからだ。

私はこれまで同級生より背が低く、これまで不便だと感じることがあった。たとえば、黒板に文字を書くとき。上のほうだとどうしても届かず、困ったことがある。なので、高さを補うために踏み台を使ったりしていたのだが、もしこれが平等な社会であると、どうなるか。

平等には「みな等しいこと」という意味がある。つまり、台を使う人がいるなら、その他の全員も台を使わなければならない、ということ。でも、これだと背の高い人が下のほうを書く際よけいに腰をかがめて書かなければいけない。これだと、たとえ平等でも、幸せではない人が現れてしまう。

ならば、こうしたらどうだろうか。台が必要な人のみが台を使い、必要のない人は使わない。当たり前だと思うかもしれないが、これならみんなが幸せではないだろうか。そしてこれは平等な社会ではない、公平な社会だ。

もう一つ、身近な例を挙げてみる。鬼ごっこや絵対決など、物事で勝負を行うとする。もし、平等に対決をするならば、意味の「みな等しいこと」に沿って、勝負で優勢なほうにハンデをもうけるなどして、全員の力を等しくしてから勝負を行うことになる。一方、公平には「全てのもを同じように扱う」という意味がある。つまり、ハンデなどは設けず、正々堂々自分の力で戦う、ということになる。この場合、公平であるほうが、勝負にはふさわしいだろう。

このように、公平が優れている事例は日常生活にも数多くある。ヘルパーさんが年配の方の生活を援助する。生活に困窮している人に給付金を支給する。カウンセラーと悩みを持つ人とが話す機会を設ける。この全てが公平であり、幸せであると思わないだろうか。公平と幸せは両立することができるのだ。

「平等に格差はない。だから、みんな幸せに過ごせる。」この「格差がない=幸せ」という考えに多くの人になっている。しかし、「みんな幸せになれる」の裏を返せば、「みんな不幸になる」可能性もある、ということ。これこそが平等の最大のデメリットであり、私が「平等と幸せの両立は不可能だ」と考えたその根拠でもある。一方公平には格差が存在する。そのため、幸せかどうかは毎日一人ひとり異なる。でもだからこそ、常に幸せに過ごすことができる。格差があることは、決して悪い訳ではない。むしろ、格差があることで、毎日の幸せがある。そう考えることもできるだろう。いや、断言しよう。幸せな日常の実現に、格差は必要だ。でもその格差は、人を見下したり、自分を高めようとするものであってはいけない、誰かを思いやったり、助けになったりする。この現代社会に必要な格差とは、そういった優しい格差だと、私は思う。犯罪も、いじめも、戦争も、解決に必要なのは、優しさだけで良いのだから。



## 優良賞

### 変わる、そして変える

別海町立中春別中学校3年 かわにし 川・ あこ 亜胡

「ロシアがウクライナに攻撃を開始しました。」

この言葉が世間に広まったのは2022年2月24日の朝のニュースでした。つまり戦争が始まって、もう1年以上たったということです。誰がここまで長く続くと思ったでしょう。今では、ガソリンや食べ物の値段が上がった状態が普通となってしまっています。でもやはり、どこか他人事として捉えているのではないのでしょうか。

この戦争によって、世界中の全ての人々が少なからず、影響を受けています。こんな戦争、誰も得なんてしません、では、なぜ戦争なんかするのでしょうか。

私は、考え方が違うからだと思います。「人それぞれ考え方があって、全く同じ考えの人は世界に誰一人存在しない」そんなこと、誰だって知っています。ただお互いの正義が合わなかったために、最後の手段である戦争が起きてしまったのだと思います。こういった衝突は身の回りでも起こっています。

戦争だと実感がわかないと思います。私もそうです。では、「けんか」に例えてみます。けんかや言い争い、もめた経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。その時、みなさんはどんな気持ちになりますか。私は中学生になってもまだ、妹とけんかをすることがあります。また、妹たちがけんかをするところを近くで見ていることもあります。けんかも戦争も自分の正義をつらぬくために起こります。こういったときに私はつい、きついことを言ってしまう、後悔します。みなさんもきつい言葉が飛び交っているのを見かけたとき、どうしますか、争っている両者の間に入り、仲裁者になりますか。それとも自分には関係ないと黙って傍観者として成り行きを見ていますか。

ウクライナとロシアの戦争で日本は傍観者、友達同士、兄弟同士のけんかで私は傍観者です。争うこと以外でも、日常生活には見過ごしてはいけない場面があります。それを目にしたとき選択を迫られることもあります。例えば、陰口を言ってはいけないと誰もが分かっているでも無くなりません。そして、注意しようと思っても、なかなか出来ず後悔します。他にも見過ごせない場面がありました。

私の通っている中学校では、昨年、アメやガムのゴミが学校内で見つかることが複数回ありました。学校全体に問題にし、学級ごとに話し合いを行ったりしましたが、名乗り出る人はいませんでした。私はこのままではいけないと思いました。今までの学校の良さがなくなってしまうと思ったからです。そこで私は、今の悪い流れを変えたいと思い、生徒会長に立候補しました。

生徒会長になってみて、正直はじめはあまり自身が持てませんでした。学校の中心となって行事を企画したり、進めたりするということは、必ず責任がついてくるからです。そんな責任重大な仕事、自分にはできなと思いました。ですが、今はやってみて良かったと思っています。一つ行事が終わるごとに達成感を感じ、その度に自分への自信もついていきました。今では生徒会での活動を楽しめるようになりました。一步踏み出したことで自分の成長にもつながったのです。

私や日本が傍観者ではなく仲裁に入ることができたら、戦争や日常生活の何かが変わっていたかもしれません。見過ごしてはいけない場面を目にしたとき、何をすべきか考えることが大切です。私は一步踏み出したことで、少し成長した気がします。これからも迷ったり、勇気を出せないこともあるかもしれませんが、それでも状況を変えるために、自分を変えるために、一步、踏み出していきたいです。意識を変え、行動を起こせば、何かが動きだします。みなさんも一步、踏み出してみませんか。今よりももっと輝く未来のために。



## 優良賞

### 羅臼の魅力伝えるために

羅臼町立知床未来中学校3年 おくやま 奥山 りん 凜

私の住む町、羅臼町は二〇〇五年に世界自然遺産に登録された知床の自然が目の前にある町です。豊かな自然環境に恵まれ、さまざまな動物が暮らしています。このことは私を含めた羅臼町民であれば誰もが知っています。ほかにも、羅臼昆布などの特産品、観光など、羅臼にはさまざまな魅力があります。

ですが、「知床」と聞くと、羅臼ではなく、反対側のウトロをイメージする方も多いのです。私が以前見た知床についてのテレビ番組では、羅臼の紹介が少しされたあと、すぐウトロに場面が移り変わってしまい、悲しく思いました。多くの人にとって羅臼町は「通り過ぎる町」のイメージがあるようです。

しかし、これは「羅臼町に魅力がない」のではなく、「羅臼の魅力を知らない人が多い」ということです。

では、羅臼の魅力を伝えるためにどのようなことをすればよいのでしょうか。

たとえば、SNSを使って魅力を伝えるという方法があります。SNSを活用することで、より多くの人に魅力を伝えることができます。羅臼町にはすでに公式のYouTubeチャンネルがあり、羅臼についての動画が公開されています。ですが、動画ではなくても、文や写真を使って伝えることは可能です。文や写真は動画よりも手軽に投稿できます。文や写真がメインのSNSは観光地、特産品などの情報を簡単に発信することができ、「行ったときに寄ってみよう」と思う人が増えるのではないのでしょうか。

ほかにも、昆布を製品にするまでの体験ができるツアーを組んだり、お祭りなどのイベントを広く告知することで、魅力をより多くの人を知ることができます。

また、知床は「世界」の自然遺産なので、海外からの観光客には、言葉を変えて説明する必要があります。お土産、パンフレットの表記に英語や中国語を載せ、わかりやすくします。そうすることで、より魅力が伝わりやすくなるのではないのでしょうか。

いくつか例を挙げましたが、方法は他にもたくさんあります。それに、私たち一人ひとりにできることもあります。

それは、「話して伝える」ことです。

相手が知らない羅臼の魅力を伝え、教えてもらった人が、また、周りに伝えていきます。そうすることで、羅臼の知名度が上がり、魅力も伝わるのです。

この話して伝えるということは、羅臼町だけではなく、他の地域にとっても大切なことです。自分の地域のことを知ってもらい、関心を持ってもらえるように、「伝える」ということを大切にしていきましょう。





## 優良賞

### 努力は報われる

根室市立海星学校 9年 さとう ひなこ 佐藤 日向子

皆さんは「努力は報われる」という言葉を聞いたことはありますか。また、「努力は報われた」と強く実感したことはありますか。

私は4歳のときから日本舞踊を習っています。このころは振り付けを間違ってしまうと踊ることが楽しくて、へこたれることもありませんでした。ですが、学年が上がるにつれて、踊りが難しくなり、ミスをしたり、怒られることも多くなりました。

その内、お稽古に行きたくないと思うことが増えていきました。どうして私だけが怒られるのかな、先生は私のことが嫌いなのかな、と思うようになってきたのです。

5年生になると新型コロナウイルスが流行し、学校閉鎖をして自粛期間になりました。練習が上手く行ってなかったこともあり、最初は家でゴロゴロできると思い嬉しかったです。しかし、自粛期間は思ったよりも長く、徐々に学校に行きたい、お稽古に行きたいと思うようになりました。そして自粛期間が終わり、マスクをしながらお稽古も再開されました。しかし踊ってみると、振り付けもすっかり忘れてしまい、少し踊っただけでも疲れてしまいました。

チラッと先生の方を見ると、目が三角になっていたのです。ですが徐々に振り付けも思い出し、いつも通りのお稽古が出来るようになっていきました。

そして、中学校に入学し、勉強に部活動と小学校の時とは比べ物にならないくらい忙しくなりました。6時に部活動を終え、その後でも2、3時間のお稽古がありました。ですが振り付けや、体の使い方が上手く行かず、たくさん怒られました。この時初めてお稽古をやめてしまいたいと思ったのです。

どうしても誰かに聞いてほしくて、母に相談しました。すると、母は「先生はね、日向子は出来ると思うから怒るんだよ。出来ない子には怒らないよ。」と言いました。

その時の私には、母の言葉の意味がわかりませんでした。迷いながら練習をする日々が続きました。

そんな中、発表会が開かれることになりました。4年ぶりの発表会です。

そこからはたくさんお稽古をしました。1年間同じ曲の踊りを何度も繰り返し練習し、とうとう発表会のリハーサルの日がやってきました。本番だと思いながら一生懸命踊り終え、そして発表会当日。先生に昨日すごく上手だったよ、と言われ、嬉しい気持ちでいっぱいでした。

何より嬉しかったのは、岩手にいる兄からメッセージとお花が舞台に届いていたことです。

10キロある着物の衣装とかつらをかぶり、これまで練習したことを生かして上手に踊ることができました。発表会は大成功でした。

その時、母の言っていた言葉の意味がわかりました。これまで頑張ってきてよかったと思いました。

日本舞踊は、日本の伝統芸能であり、踊りと舞はもちろんですが、所作を磨くうち、続けているうちに、知らず知らずの間に自分の身体に染みついていくのがわかります。

もし、辛くてくじけそうな時も、頑張っ続けていくと、必ず努力は報われるということを私は伝えたいです。

これからも後輩達のお手本となれるよう、日本舞踊を続けていきます。



## 審査講評

### 審査員長

別海町立別海中央小学校校長 ねもと 根本 わたる 渉

本日は発表された皆さん、そして最後まで聞いてくださった皆さん大変お疲れ様でした。まずは、発表された皆さん本当に素敵な発表ありがとうございました。

それでは講評ということでお話しさせていただきます。今回の発表ですが9名、本当に聞いていただいたとおりはございません。本当にどれもが素晴らしい発表でした。ただ今回上位に入った優秀賞、最優秀賞の3人につきましては、身近な課題を一般性、社会性を持たせるという特色がみられたと思います。あと、今回は社会問題を積極的に扱ってくれた主張も多かったように思います。

今回あまり差がなかったとお話しましたが、もっとも差が付いた項目は何か、それは自分の提言、提案を実現する。達成するということがよりしっかり書かれていた作品が、採点に現れていたと思います。

そのためには、これからより深く考えること、より深く学ぶことが、実現するために必要なことなんだなと考えています。ぜひ今後の参考にさせていただきたいと思います。

本日、9名の皆さんが、主張の中に見せてくれた自分の意見を持てる力、自分の意見を人に伝える力は、これから社会を担う皆さんに本当に必要な力です。是非これからもその力をこういう機会を通して培ってください。

最後になりますが、現在はSNSが多くの人に活用され、誰もが自分の意見、価値観の発信者となれる社会です。今もこの時間同時多発的に多様な意見が、価値観が世界中で発信されています。そのような社会であるからこそ、自分の意見だけではなく、より色々な視点を持ちながら、自分で主体的に考えていくことが大切になります。これからもいろんな視点を持ちながら、しっかりとした心を持って自分の意見を持てる力と、自分の意見を伝える力を一層育ててほしいなと考えています。

今日、最後までしっかり聞いてくれていた標津中学校、川北中学校の皆さん、本当に聞く姿勢が立派でした。良い聞き手が良い話し手を育てるといいます。是非これからも標津中学校、川北中学校、標津町の全員にこれからの社会に必要な力を、お互いに切磋琢磨して育ててほしいと思いました。今日の皆さんの聞く姿勢本当に立派でした。ありがとうございました。